

第3回 能楽祭

お客様へ日頃の御礼を込めて

舞囃子 高砂

中村邦生

独吟 内外詣

廣田幸稔

小舞 通円

山本東次郎

一調 管 葛城

大坪喜美雄

一噌仙幸

三島元太郎

狂言 舟ふな

野村萬

能 仲光

愁傷之舞

武田宗和

切るのは、
主君の子か、
わが子か。

平成26年
日時 5月19日(月)

開演14時30分(開場13時30分)

会場 宝生能楽堂

主催/公益社団法人能楽協会 協力/宝生能楽堂
特別協賛/サントリーホールディングス株式会社
協賛/京都・烏丸三条 十松屋福井 株式会社檜書店 株式会社わんや書店

能楽へのご支援に感謝申し上げ、
本公演限りの特別なおもてなし

- ・ご来場者を対象としたお楽しみ抽選会の実施。
[式能]チケットほか素敵な景品が当たります。
- ・パーティ付チケットをご購入の方は、抽選会后、能楽堂ロビーにて出演能楽師と語り合えるカクテルパーティにご参加下さい。

日時/平成26年5月19日(月) 開演 14時30分(開場13時30分)

会場/宝生能楽堂 東京都文京区本郷1-5-9

入場料金

[全席指定]

		[パーティ付]
◆S席	8,000円	11,000円
◆A席	6,000円	9,000円
◆B席	4,000円	7,000円
◆普及席	2,500円	5,500円
◆学生席	2,000円	5,000円

普及席・学生席は
カンフェティのみで販売

※26歳以下(当日要学生証提示)

※障害者割引あり…詳細は能楽協会(03-5925-3871)までお問合せ下さい。
※パーティ付チケットのお申込は20歳以上の方でお願い致します。

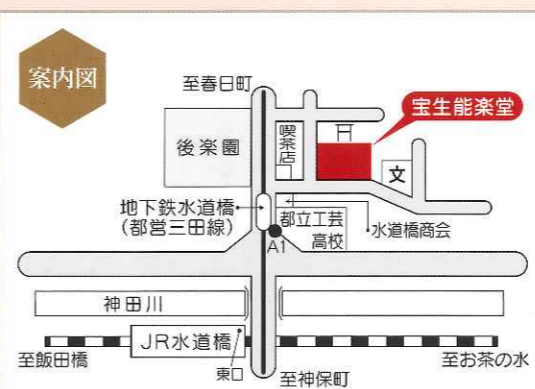
切符取扱

平成26年1月31日(金)午前10時より発売開始

- ◆宝生能楽堂 03-3811-4843 (有人対応)[火~日 10:00-17:00]/窓口販売
- ◆チケットスペース 03-3234-9999 (有人対応)[月~土 10:00-12:00/13:00-18:00]
- ◆カンフェティ★ 0120-240-540 (有人対応)[平日 10:00-18:00]
- ◆チケットぴあ★ 0570-02-9999 [Pコード 433-835]
ぴあ全国各店舗 ★印:ネット販売あり
サークルK・サンクス/セブン-イレブン

前売りチケット販売期間
1月31日(金)~5月14日(水)

※チケットスペースのみ5月12日(月)までの販売となります。
※5月14日を過ぎてからのチケットのご購入については当日券になります。
但し、販売期間にかかわらず、チケットが売り切れ次第、販売を終了させて頂きまますので予めご了承下さい。詳しくは能楽協会へお問合せ下さい。



宝生能楽堂 東京都文京区本郷1-5-9 ☎03-3811-4843

【交通】JR水道橋(東口)徒歩3分
地下鉄都営三田線水道橋駅(A1出口)徒歩1分

駐車場がございませんので、お車のご来場はご遠慮下さい。

- ※場内での撮影・録音・録画は固くお断り致します。
- ※場内での時計のアラーム、携帯電話の電源はお切り下さいますようお願い申し上げます。
- ※出演者は都合により変更させて頂く場合がございますので予めご了承下さい。
- ※開演前のご来館につきましては、能楽堂館外にてお待ち頂くこととなりますのでご承知下さいますようお願い申し上げます。



主催・問合せ/公益社団法人能楽協会

TEL 03-5925-3871

http://www.nohgaku.or.jp

能楽協会では、チケットの販売を致しておりません為、上記取扱所にてお求め下さいますようお願い申し上げます。

第三回 能楽祭

御挨拶

公益社団法人能楽協会
理事長 野村 萬



能楽は、時に盛衰消長こそあれ、その時代に生きる人々によって支持され受け継がれ、六百五十年の時空を超えて現代に生きる芸能であります。戦後間もない一九四五年秋に設立された私も能楽協会は、その振興と発展を責務として、微力ながら日々邁進しているところですが、その目的がいくばくかでも成しえているとするならば、それは他ならぬ皆様のご支援・ご指導あってこそでございます。この度、常日頃より能楽を、そして演者である私どもを支えて下さっている皆様への感謝を込めて、「第三回能楽祭」を開催させて頂く運びとなりました。組織を上げての公演に、出演者一同心して勤める所存でありますので、何卒宜しく御高覧下さいませよう御願ひ申し上げます。

番組

(開演 十四時三十分)

解説 観世 喜正

舞囃子 (喜多流)

高砂

中村 邦生

大鼓 國川 純
小鼓 大倉源次郎
笛 一噌 隆之

地謡

友枝 雄人
長島 茂
香川 靖嗣
金子敬一郎

内外詣

独吟 (金剛流)

廣田 幸稔

小舞 (大藏流)

通円

山本東次郎

地謡

山本 則重
山本 則俊
山本 則秀
後見 山本 則孝

葛城

一調一管 (宝生流)

大坪喜美雄

三島元太郎
一噌 仙幸

狂言 (和泉流)

舟ふな

シテ主人 野村 萬

アド(太郎冠者) 野村太一郎

(十五時二十五分頃)

能 (観世流)

(十六時頃)

仲光

シテ(藤原仲光) 福王茂十郎

大鼓 亀井 忠雄
小鼓 成田 達志
笛 藤田六郎兵衛

後見 観世 喜正
寺井 榮

地謡

武田 宗典
松山 隆之
角当 直隆
藤波 重孝
井上 裕久

附祝言

(終演予定 十七時二十五分)

終演後、客席にてお楽しみ抽選会を実施 (チケットの半券が当選番号確認のために必要となりますので大切に持ち下さい)

パーティーチケットをご購入の方は、抽選会後、能楽堂ロビーにて出演能楽師と語り合えるカクテルパーティーにご参加下さい

高砂 (たかさご)

千秋万歳を祝う名曲。九州肥後の国阿蘇宮の神主・友成は、都へ上る途中、高砂の浦で松の木陰を清める老夫婦に相生の松の謂れを尋ねる。老夫婦は松のめでたさと和歌の徳をたたえ、自分達こそ相生の松の精だと明かし姿を消した。友成が住吉に行くとき住吉明神が現れて御代を祝い、天下泰平の神舞を颯爽と舞う。ある非常に珍しい曲。

内外詣 (うちともうて)

勅命を受けた帝臣は伊勢神宮を訪れ、神主と巫女に祝詞を奏上するよう命じる。神主は厳かに祝詞を上げ、君臣、親子、夫婦、兄弟、朋友の礼節を語り、仁義礼智信の五常の道を説く。巫女は神楽を奏し、続いて神主も獅子の舞を見せ、新春をことほぐ。金剛流にのみある非常に珍しい曲。

通円 (つうえん)

能「頼政」(武勇の誉れ高い源頼政を題材とした修羅物)のバロティで形式的にも能の様式を踏襲した舞狂言。東国より都へ上る僧が、宇治橋へ着き、人気がない茶屋を見つめる。昔、ここに通円という茶屋の亭主がいたが、宇治橋供養の折、茶を点て過ぎて死んだ話を聞く。僧が吊っている、通円の亡霊が現れ、都から押し寄せた三百人の客に残らず茶を飲ませようと奮闘したが、疲れ果ててついに死に至った有様を語り、供養を頼んで消え去る。

葛城 (かづらき)

雪の葛城山を舞台とした静かな詩情漂う演目。羽黒山から葛城山へ着いた山伏たちは、降りしきる大雪の中で里女に出会い、温かいもてなしで一夜の宿を借る。やがて女は、自分は葛城の神であり、昔、岩橋を架けなかつた罪で役行者の呪縛に苦しんでいると打ち明ける。山伏が祈禱をすると、葛城明神が現れて静かな大和舞を舞うが、夜が明ける前に自分の醜い顔を恥じ、警戸の中へ入っていく。

舟ふな (ふねふな)

主人が太郎冠者を連れ西宮見物に行く途中、神崎の渡しにさしかかる。冠者が舟を「フナやーい」と呼ぶので、主人は「フネ」と呼ぶようにたしなめるが、冠者は古歌を引き「フナ」が正しいのだと主張する。対して主人も古歌でやり返すが、冠者の方が別の古歌を次々出し、窮した主人が謡を思いつき、「山田矢橋の渡し舟の、夜は通ふ人なくとも、月の誘いはおのづからふねもこがれいつらん」と謡うが、実はその謡は…。

仲光 愁傷之舞 (なかつしゅうしょうのまい)

藤原仲光は、寺に預けていた主君・多田満仲の子美女丸を伴い、満仲のもとへ参上する。美女丸が学問に身を入れず、武芸ばかりをしていることに満仲は激しく怒り、斬り殺そうとする。仲光がその場をとりなすものの、怒りの収まらない満仲は、美女丸を討つように仲光に命じる。さすがに主君の子を討つことも出来ず、悩む父の姿を見かねた仲光の子幸壽は、身代わりを申し出る。切るべきは主君の子か我が子が。太刀を抜き、ためらう仲光はついに…。今回は「愁傷之舞」の小書(特殊演出)がつき、仲光が悲しみをこらえつつ舞を舞う演出となる。

◆上演形式の説明

- 「舞囃子」
能一曲の見せ場にあたる部分を地謡と囃子の演奏に合わせて一人ないし複数人で舞う。
- 「独吟」
一曲の特定部分を囃子の演奏を伴わず一人で謡う。
- 「小舞」
狂言方が舞う舞。狂言小舞ともいう。能と異なり、狂言らしい写実的な独特の型もある。狂言の中の酒宴の場などで座興として舞われることが多い。
- 「一調一管」
謡い手一人と鼓一人が、能一曲の特定部分を演奏することを「一調」、これに笛の加わったものを「一調一管」という。舞事の部分が中心となり、笛の技術が際立つ。謡い手、囃子方共に一定以上の技量が求められ、囃子方では重い扱いとなる。本日は太鼓との組合せとなる。